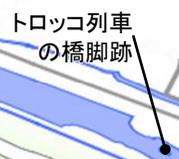


# 芥川の魚みち

川には、水の流れを調整するためや取水をするために、多くの段差が設けられています。しかし、その段差が魚の移動には支障となるため、魚が移動できるように魚道をつくっています。芥川には、魚が行き来しやすいようにこだわってつくった様々な魚道があります。ぜひ訪ねてみてください。



背景地図  
国土地理院ウェブサイト

# 田刈用水井堰



摂津峡への入り口にあたる、塚脇橋下流にある農業用取水堰です。上流側の堰の段差に石の魚道、その下流側に全断面魚道があります。



全断面魚道の中央にあるシュート部は、増水時に下流側の土砂をフラッシュして魚ののぼり口の水深を維持する効果があります。

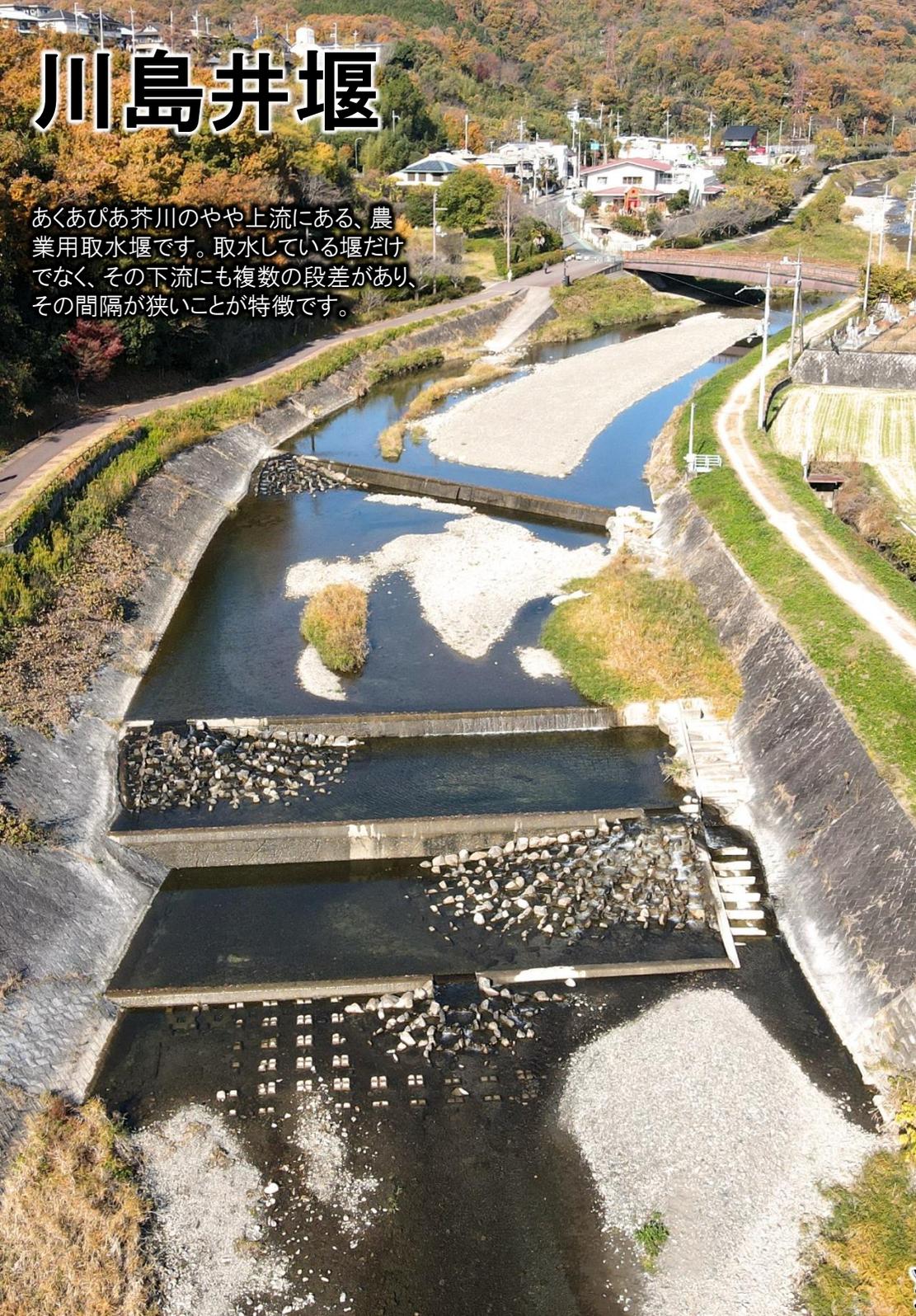


擬石と擬石の間に隔壁を設けてプールを創出しています。

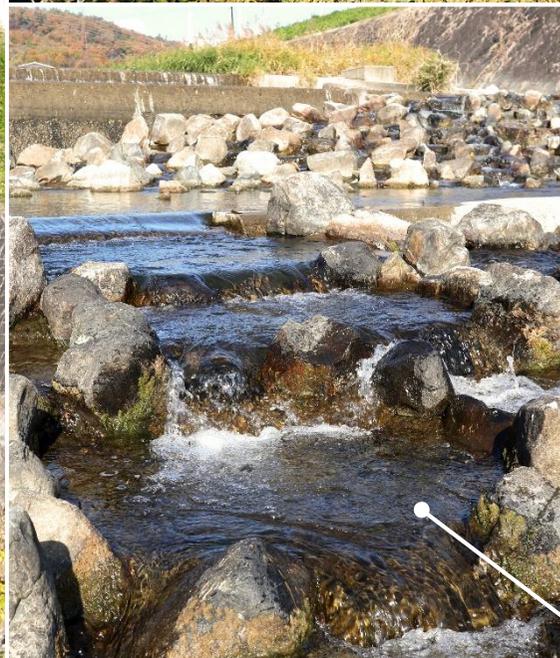
段差部の流れを滑らかにするため角を丸くしています。

# 川島井堰

あくあびあ芥川のやや上流にある、農業用取水堰です。取水している堰だけでなく、その下流にも複数の段差があり、その間隔が狭いことが特徴です。



1段の段差が大きく、間隔が狭いため魚道の設置スペースが限られているほか、取水に影響が出ないようにする必要があります。これらの制約条件をクリアできる方法として、石の魚道を設置しました。



勾配は1/7~1/5。石の配置を工夫して、水深20cm程度のプール群を創出しています。

# 正恩寺橋下流落差工

あくあびあ芥川の目の前にある、落差1.5mの落差工です。右岸側に、延長約17mの魚道を設置しています。



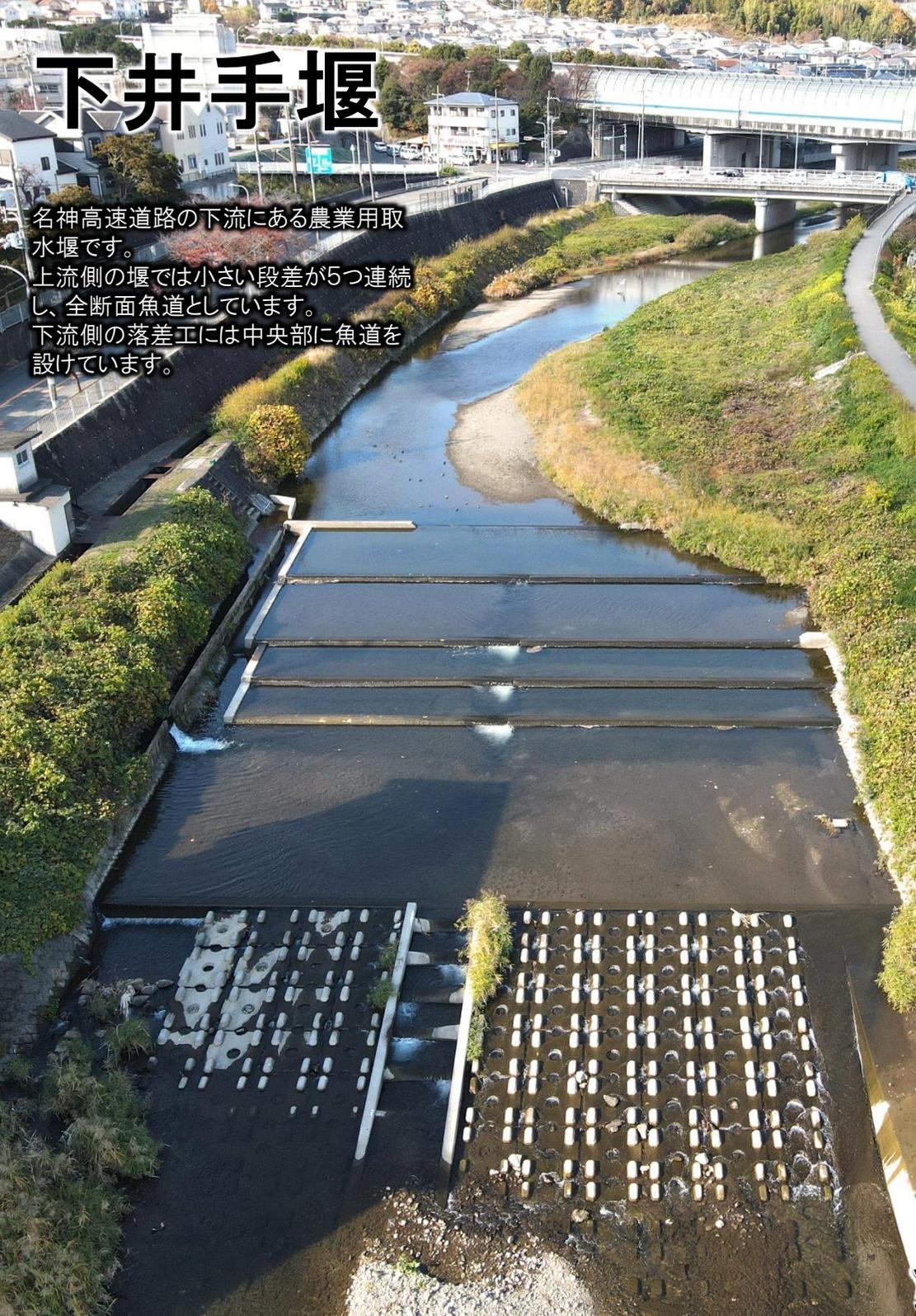
アメリカのアイスハーバーダムに設置された魚道がこの形であることから「アイスハーバー型」と呼ばれています。



コの字型の仕切り壁を階段状に配置したプールがあり、魚が休憩しながらのぼることができるのが特徴です。

# 下井手堰

名神高速道路の下流にある農業用取水堰です。  
上流側の堰では小さい段差が5つ連続し、全断面魚道としています。  
下流側の落差工には中央部に魚道を設けています。



下流側の落差工には、中央部にハーフコーン型魚道を、左右両側に護床ブロックを設置して河床低下を防いでいます。



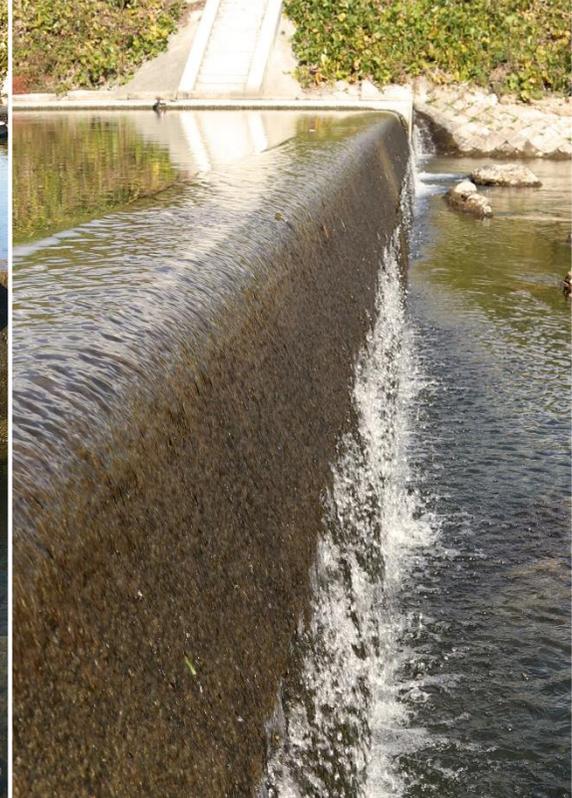
ハーフコーン型の隔壁により多様な魚種に対応。

# 清福寺落差工

大蔵司橋と門前橋の間に位置する落差工です。左右岸を行き来できるとともに、魚道のメンテナンスにも活用できる渡り石を設置しています。

隔壁に傾きを持たせて、ある程度の増水に対しても、滑らかな越流水が確保できるように工夫しています。

魚がのぼり口を見つけやすい、引込み式の魚道を採用しています。下流側のみお筋には多くの魚の群れが見られます。



# 芥川頭首工



門前橋のすぐ上流に位置する頭首工（とうしゅこう；農業用取水施設）です。現在は農業用水の用途はありません。



隔壁に傾きを持たせて、ある程度の増水に対しても、滑らかな越流水が確保できるように工夫しています。また、角を削り丸みをもたせています。

取水機能を維持する必要がないため、ここまでのぼってきた魚がのぼり口を見つけやすいように引き込み型の魚道としました。



# 門前橋下流落差工

桜堤公園の上流側にある落差0.8mの落差工です。この段差を、左岸側に設置した魚道でつないでいます。



魚道設置にはデルタフリーブロックを約1,700個使用しました。重量は1つ38kgで、人力での施工が可能です。



丸みをつけて越流水を滑らかにしています。

デルタフリーブロックは、円筒を3つ組み合わせた形状の魚道用小型ブロック。

勾配が緩くなるように魚道のルートを蛇行させています。

# JR橋梁下流落差工

JR橋梁の下流側には4段の落差工があり、落差は計3.55mになります。この段差を、右岸側に設置した50m近い延長の魚道でつないでいます。



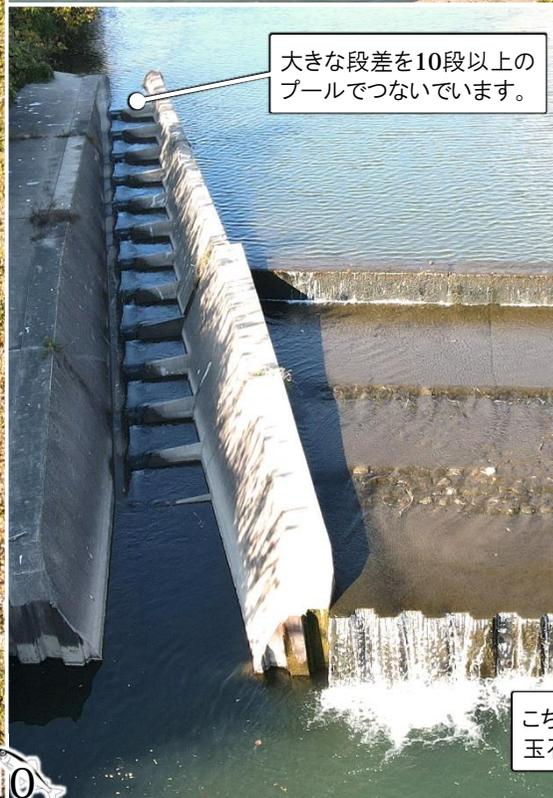
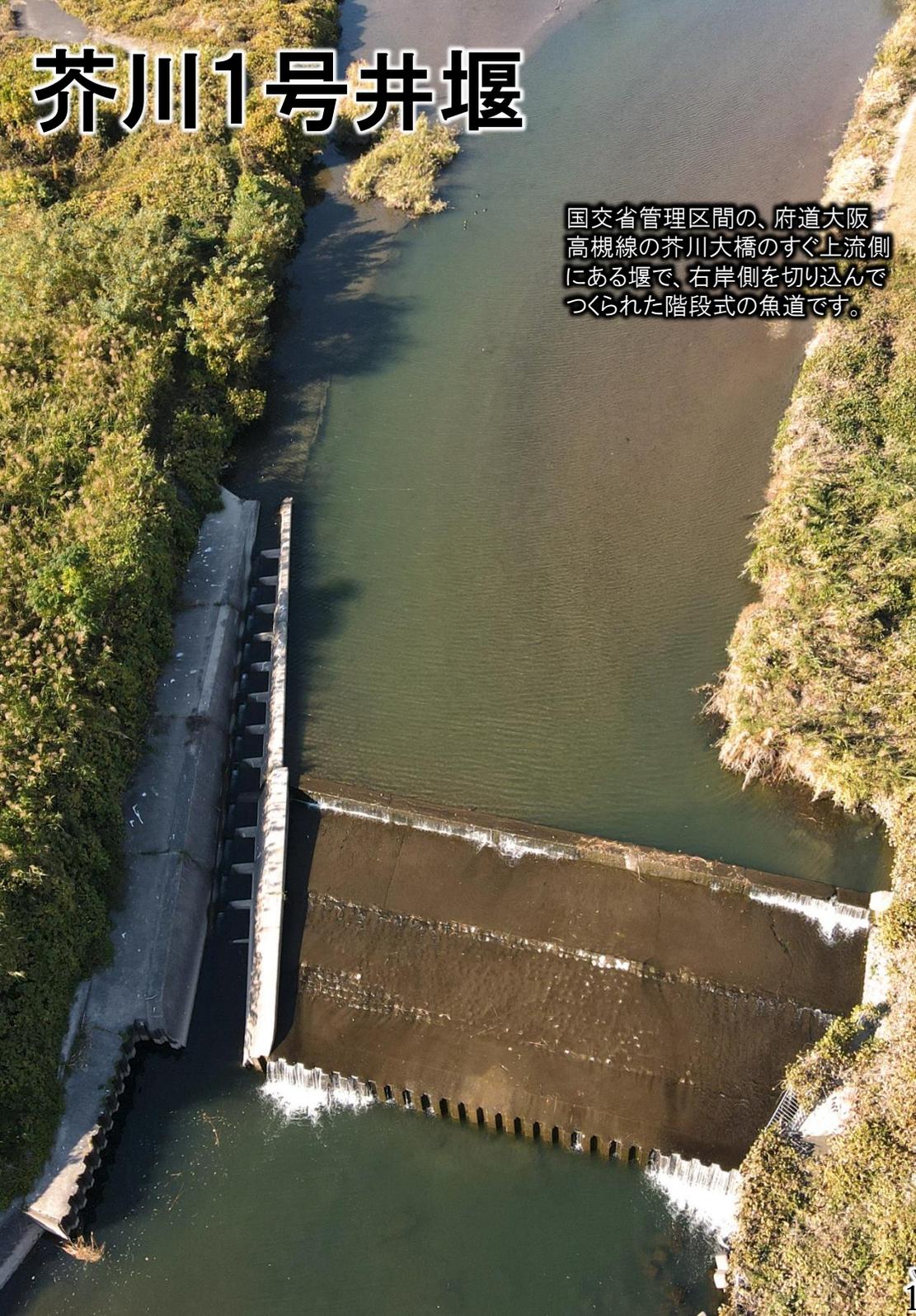
階段式と斜路式を併設。

# 芥川1号井堰

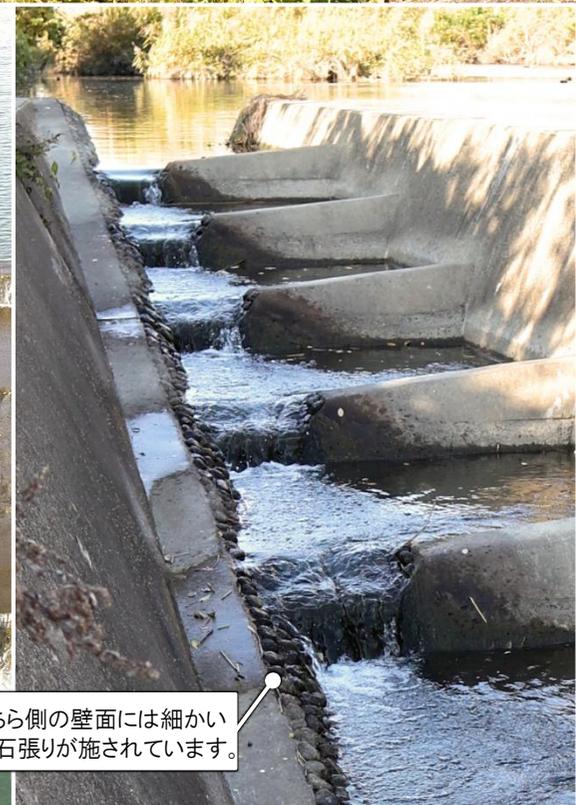
国交省管理区間の、府道大阪高槻線の芥川大橋のすぐ上流側にある堰で、右岸側を切り込んでつくられた階段式の魚道です。



すぐ上流側には津之江公園があり、さらに北側には「ビッグミルチ」を遠望することができます。



大きな段差を10段以上のプールでつないでいます。



こちら側の壁面には細かい玉石張りが施されています。